

# アーカイブズ学における共同研究とその意義

安藤正人

総合研究大学院大学教授日本文学研究専攻／人間文化研究機構国文学研究資料館教授

## Joint Research in the Field of Archival Science and its Significance

Masahito Ando

Professor, Sokendai (The Graduate University for Advanced Studies)

Professor, The National Institutes for the Humanities, National Institute of Japanese Literature

アーカイブズ学の研究では、日本は世界に立ち遅れている。

韓国では、政策の柱としてシステム整備が強力に進められており、ごく最近になって日韓の交流が始まった。

Japan lags behind the rest of the world when it comes to research in the field of archival science. In Korea, system maintenance is strongly promoted as a policy pillar, and exchange between Japan and Korea began quite recently.

### アーカイブズ学について

アーカイブズ学 (archival science) は、もともと政府や商業団体、あるいは大学や教会の記録を永年保存史料 (archives) として活用するため、古文書学を父とし、図書館学を母として19世紀にヨーロッパで体系化された。現代では、広い意味での情報資源学の一部とみなされ、人間の諸活動の中から生みだされる記録物 (紙からデジタルまで) を“知的情報資源”として保存活用するための総合科学として、新たな発展が図られている。

アーカイブズ学は「文書館学」として日本に紹介され、「史料管理学」「記録史料学」などいくつかの訳語が提案されたが、現在では「アーカイブズ学」と呼ぶ

ことが多くなっている。国文学研究資料館の附属施設であった史料館が1980年代半ばから研究に着手し、2003年には『アーカイブズの科学』(柏書房)を刊行するなど成果をあげているが、国際水準から見ると日本の立ち遅れは否定できない。

### 急速に進む韓国のアーカイブズ学研究とアーキビスト教育

韓国では、金大中大統領による民主化政策の柱の一つとして、行政記録管理の合理化とアーカイブズ・システムの整備が強力に進められ、1999年1月に「公共機関の記録物管理に関する法律」が制定された。中央・地方のすべての公共機関にアーカイブズの設置とそれを管理するアーキビストの配置を義務づけた画期的

な法律である。これに呼応して、民間企業や大学でも、アーカイブズやレコード・マネジメントへの関心が高まっている。このような動きに対応するため、木浦大、明知大、釜山大、延世大、梨花女子大、ソウル大など全国の10をこえる大学が、「記録学」専修コースを大学院に設け(「記録学」はarchival scienceの韓国語訳である)、アーキビストの育成に乗りだしている。いまだに本格的なアーキビスト養成システムをもたない日本とは対照的である。また、「韓国記録学会」などの学会が組織され、アーカイブズ学研究も急速に進みはじめている。

### 日韓学術交流の開始

アーカイブズ学の分野で日韓交流が始まったのはごく最近のことで、本格的な学術交流は2002年からである。この年、科研費による「旧日本植民地・占領地におけるアーカイブズ政策と記録伝存過程の研究」(研究代表者・安藤正人)がスタートした。植民地行政文書や軍政記録の残存状況を調査するとともに、日本統治下で現地の記録文書が蒙った被害の実態を明らかにし、アジア太平洋諸国が進めている20世紀の「失われた記憶」再生の試みに役立ちたい、という意図である。

この研究の一環として、国文学研究資料館史料館のメンバーによる韓国史料調査が始まった。その過程で韓国のアーカ



韓国明知大学における研究会「記録史料管理と近代」(2004年5月)

韓国安東での共同調査（2003年11月）。  
旧家の当主が両班（ヤンバン）の服装で  
インタビューに応じてくれた。



イブズ学研究者との親交が深まり、日韓双方で相互に研究者を招いて研究会やシンポジウムを開くようになった。日本では、2002年12月に開催されたシンポジウム「記録を守り記憶を伝える—21世紀アジアのアーカイブズとアーキビスト—」（学習院大学主催）が最初である。

#### アーカイブズ学における 日韓共同研究の意義と課題

国文学研究資料館史料館は、法人化により「人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ研究系」に改組され、名実ともにアーカイブズ学研究所のセンターになった。また、2004年春には「日本アーカイブズ学会」が誕生し、研究の裾野も着実に広がっている。

国文学研究資料館アーカイブズ研究系は、中期計画の一つとして「東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究」を掲げ、日韓共同研究に力を入れはじめていく。2004年度は、2度の韓国史料調査のほか、2回の学術シンポジウムを韓国と日本で開催した。1回は、韓国国史編纂委員会を会場にした国際研究会「近世東アジアにおける組織と文書」（2004年11

月）。アーカイブズ学的な観点から、韓国と日本の近世文書を中心に比較研究を試みたもので、日本と韓国のほか、中国、トルコからも研究者が参加した。

もう1回は、学習院大学で開催した「日韓近現代歴史資料の共用化に向けて—アーカイブズ学からの接近—」（2004年12月）である。韓国国家記録院が所蔵する朝鮮総督府文書を中心に、植民地期史料の研究と整備を日韓共同で進め、相互に開かれたアーカイブズ・システムを築きあげるという趣旨のもと、その第一歩として企画されたシンポジウムである。韓国側からは、国家記録院、国史編纂委員会、明知大学などの研究者が参加したが、今後もこれらの研究機関・研究者と協力し、次のような研究課題に取り組んでいきたいと考えている。

（1）朝鮮総督府の行政システムと総督府文書群の構造研究、（2）日韓両国の朝鮮植民地関係史料の共同調査、（3）連合国に接収された朝鮮植民地関係史料の共同調査、（4）日韓両国所在の朝鮮植民地関係史料の総合的利用システムモデルの研究開発。

私たちの日韓共同研究は緒についたばかりで、見るべき成果はまだほとんどない。しかし、いわゆる歴史問題に関わって韓国や中国の人々といかに歴史認識を共有するかが課題とされ、政府の音頭で日韓歴史共同研究事業も行われているが、歴史認識の共有のためには、その前提として、何よりも歴史認識の基礎となる記録史料の共用化が図られなければならない。アーカイブズ学における日韓共同研究の意義は、そこにあると考えている。

安藤正人（あんどう・まさひと）

日本近世史を学び、国文学研究資料館でこの分野の研究を始める。1984年、国際アーカイブズ会議（ボン）に参加し、世界のアーカイブズ学と出会う。アーカイブズ学を本格的に研究するため、1986年にロンドン大学ユニバシティ・コレッジ大学院に留学。アーカイブズ学修士号を取得。現在、第二次世界大戦期日本植民地・占領地における記録史料の略奪や破壊の実態を、アーカイブズ学の立場から研究している。『記録史料学と現代—アーカイブズの科学をめざして—』『草の根文書館の思想』などの著書がある。

